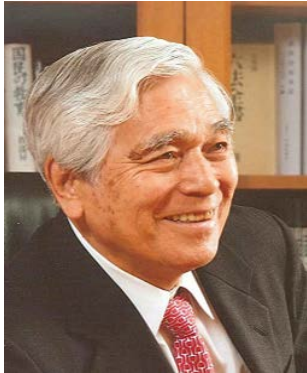


遠くを見て微笑む

埼玉県私立中学高等学校協会 会長 小川 義 男



ルイアラゴンの詩に次のような一節がある。

「学ぶとは 誠実を胸に刻むこと

教えるとは 共に希望を語ること」

教職とは、まさに若き世代と「共に希望を語る」仕事であるが、「お手々つないで野道を行く」のではない。

教師は「お友達」ではない。それだけに常に苛烈な自己修練が求められる。

埼玉私学に生きる同志たちが、厳しくこの研鑽に励むこと、そこに私学教育研究大会の意義がある。

「いかに教えるかとは、いかに生きるか」ということにほかならない。大会の成功を切望する。

教育研究大会によせて

埼玉私学教育研究所 所長 一川 高一



毎年開催の教育研究大会は、教職員の資質の向上と埼玉私学の教育力の発展に大きな成果を挙げてきています。

教育研究所は、教職員の研修や日頃の教育活動の発表の場を提供すると共に、各校が相互に連携を図ることでそれぞれに発展していくことを支える役割を担っています。

教員は毎日の授業の中で色々な悩みや課題を抱えながらも、教育実践即研究に励むことが生徒を育てていくことであり、学校を発展させていく原動力になるものと考えています。したがって「教えることは学ぶことである」の言葉の通り、生徒に教え生徒から学ぶという姿勢が重要になります。また、最近の教育に対する社会的責任には重いものがあり、生徒・保護者の期待、地域社会の信頼にこたえていくためにも、教職員としての力量を高め、さらには社会人としても豊かな人間性を培っていくことが大切でありましょう。

各私学は独自の建学の精神のもと特色のある教育を推進し、様々な分野で多くの成果を挙げてきています。これからも各校が先進的な取り組みや多彩な活動を展開することで、埼玉私学の一層の飛躍発展を図っていくことを願っています。